

建築設計競技 EUROPAN における公共建築の設計者選定手法に関する研究 その2：応募から竣工までの運営体制

Study on Methodology for Selection Architects for Public Building in EUROPAN Part 2: Management system from application to completion of construction

D：建築計画 8. 建築社会システム 1. 建築社会システム

建築設計競技	EUROPAN	公共建築	準会員	○梅田 怜緒*	Reo Umeda
設計者選定手法	運営体制	若手建築家	正会員	脇坂 圭一**	Keiichi Wakisaka
			同	恒川 和久***	Kazuhisa Tsunekawa
			同	西山 雄大****	Yudai Nishiyama

1. 研究の概要

その1では設計者が関わる前段階として以下の4つのことを把握した。1) パートナーからの土地提供と資金供給を基に設計競技が行われていたこと、2) 運営は多岐にわたる分野のメンバーで構成され、行政関係者が含まれないこと、3) 各支部の審査員は7～9人で構成され、そのうち2～3人は外国籍の審査員が含まれていること、さらに行政関係者が審査員として参加していたこと、4) テーマは審査会で議論され、テーマと敷地の相互関係が設定されていることから、EUROPANが多国間の協働による設計競技を実施している体制を把握した。本稿では、欧州において若手建築家が公共建築に参画するための仕組みとして機能している建築設計競技 EUROPAN の中でも特にフランス、スペイン、ドイツに着目し、応募から竣工までの運営体制を把握することを目的とする。

2. 研究方法

2-1. 本研究の方法

その1と同様に文献調査^{文1) 文2)}とヒアリング調査^{注1)}を行い、応募条件(表1)、提出物(表3)、E17設計競技の日程(表4)、審査の手順(図1)、参加数に対する受賞チーム数の絞り込み数(表5)、竣工した全33事例の用途・規模等(表6)について整理した。

3. E17の応募条件と提出物、日程

3-1. 応募条件

応募条件について整理した(表1)。建築家がチームに1人以上いることが必要であり(1. 職業)、他メンバーは各専門家の他、学生も応募できる条件となっていた。実績の記述欄はなかった(2. 資格)。また、応募者は40歳以下でなければならない(3. 年齢)。応募条件で定められる学士号または同等の資格を有するというのは、国により異なっていた(表2)。なお、フランスでは5年以上、スペインでは6年、ドイツでは、4～5年の教育プログラムを受けた後、1～2年の実務経験が必要となっていた^{文3)}。以上より、応募条件では実績を問わないこ

表1. 応募条件

1. 職業	少なくとも1人、大学を卒業した建築家がチームにいること。同じまたは関連する分野の1人以上の専門家。
2. 資格	建築家・都市計画家・ランドスケープアーキテクト・エンジニア・アーティストまたは社会学・地理学・生物学・環境学・生態学または各分野で学士号または同等の資格を持つ1人以上の学生。
3. 年齢	すべての応募者は40歳以下。

表2. 建築家登録制度

	フランス	スペイン	ドイツ
教育機関での年数	5年以上	6年	4～5年
実務経験	無	無	1～2年
試験	無	無	無
※教育機関での年数は、教育期間中に実務訓練期間があり学業を中断する制度を有する国もあるが、その期間は含まない。			

表3. 提出物

1	プロジェクトが視覚要素で構成される3つの縦A1プロジェクトパネル。
2	プロジェクトのアイデアを示すイラスト入りテキスト1枚(最大4ページ-A4縦)。
3	チームメンバーの適格性を証明する書類。(40歳以下の証明)
4	公式HPで公開するための書類(画像3枚+800字の短いテキスト)。
5	結果発表後、受賞者は受賞作品をYoutube等で紹介するためのビデオ1本。

とから、若手建築家が応募できる環境と言える。

3-2. 提出物

提出物は、プロジェクトパネルにイラストでアイデアを表現することが規定されていた(表3)。過去のプロジェクトを公式HPで公開することで閲覧できる環境が整えられていた(表4)。入賞した案の提出物を後進の建築家が閲覧できる教育的効果は大きいと思われる。

3-3. E17の設計競技の日程

縦軸に13のプロセスを置き、横軸に日付、期間、テーマ・敷地、審査、費用を置き、各プロセスを整理した(表4)。まず期間に着目すると、設計コンペ自体は1年間で終了し(通しNo.1～12)、その後の実施プログラムと並行して次の設計競技の準備期間が設けられていた(通しNo.13～14)。設計期間は203日(通しNo.3～6)、審査期間は一次審査から二次審査まで98日であった(通しNo.7～12)。テーマ決定の時に本部と支部が

* 静岡理科大学 理工学部建築学科 学部生
** 静岡理科大学 理工学部建築学科 教授・博士(工学)
*** 名古屋大学大学院工学研究科 教授・博士(工学)
**** 静岡文化芸術大学デザイン学部デザイン学部 特任助手・博士(工学)

Student, Department of Architecture, Shizuoka Institute of Science and Technology.
Prof., Department of Architecture, Shizuoka Institute of Science and Technology, Dr. Eng.
Prof., Graduate School of Engineering, Nagoya University Dr. Eng.
Specially Appointed Assistant, Faculty of Design, Shizuoka University of Art and Culture, Dr. Eng.

表 4. E17 設計競技の日程

通し No.	E17におけるプロセス	日付	期間	テーマ・敷地			審査			費用		
				本部	支部	設計者	本部	支部	設計者	本部	支部	設計者
1	インターセッションズフォーラム E16/E17 の開催（クレルモン・オーヴェルニュ・メトロポール（フランス））	2022 11/3 11/5	3 日	フォーラム開催	支部の代表者の投票でテーマ決定		審査員メンパー承認	審査員7～9人選出・報告				
2	敷地受付	11/6 2023 3/26	140 日	テーマを公式HPで開示、敷地受付				審査員とともに敷地ブリーフを決定		2年で全体合計七十五万ユーロを支部より収集（毎年同じ額収集している注2）	フランス七万五千ユーロ スペイン四万五千ユーロ ドイツ十五万ユーロ（フォーラム旅費含む） （各国の経済状況により異なる注3）	
3	公式 HP 登録と敷地のフォルダダウンロード開始（登録後閲覧可）	3/27 6/30	96 日	敷地のフォルダ公開					登録			百ユーロ
4	応募者との敷地見学（対面 or オンライン）	4/15 6/15	62 日	敷地見学								
5	敷地とルールに関する質疑の受付	6/2 6/16	15 日	質疑受付								
6	応募作品提出	7/30	1日				作品提出リストの公開・最終提出リスト公開	作品受付	作品提出/他者の提出リストを閲覧可			作品提出百ユーロ 修正五十ユーロ
7	応募作品提出リストの一時的な公開	7/31 8/1	2 日									
8	最終提出リストの公開	8/4	1日									
9	一次審査 各国で事前に国内審査員を選出	8月 9月	60 日				一次審査通過作品収集	一次審査				
10	都市・審査員フォーラムを開催（ウィーン）、 国際審査員（科学委員会、技術委員会）による 審査基準の指示	11/10 11/11	2 日				フォーラム開催・ 国司審査員が テーマ比較分析					
11	二次審査 国内審査員により各敷地ごと受賞者を選定	11月	30 日					二次審査				
12	結果発表公式 HP にて公開	12/4	1日				結果公開			報酬 Winner (1位) 一万二千ユーロ（約二百万円） Runner-up (2位) 六千ユーロ（約百万円）		
13	受賞結果発表から1か月以内に設計者と地権者による話し合いやワークショップの場を提供 次のテーマを決めるための準備を行う	12/5 2024	320 日	本部が支部にテーマを問う、支部から挙げられたテーマを収集			都市の代表者や施主、審査員、受賞チームが会議、敷地調査、ワークショップ、運用調査を行う					
14	インターセッションズフォーラム E17/E18 を開催（マドリッド（スペイン））	10/17 10/19	3 日	フォーラム開催	テーマの決定							

集まる審査会（フォーラム）を本部が開催し、その際に支部が審査員を7～9人選出していた（No. 1）。審査は、まず国内審査員が一次審査が行い、次に本部が審査会（フォーラム）を開催していた。審査会で科学委員会と技術委員会が支部に対して審査基準を示していた（No. 10）。その後、国内審査員により二次審査で受賞チームが決定する流れであった（No. 11）。費用に関しては、登録に百ユーロ、提出に百ユーロ、修正に五十ユーロ必要であった。報酬はWimmer（1位）で一万二千ユーロ（日本円で約二百万円^{注3)}）、Runner-Up（2位）で六千ユーロ（日本円で約百万円^{注3)}）であった。

3-4. 審査の体制

EUROPAN はフランス政府内の環境連帯移行省、文化省、高等教育・経済・イノベーション省の3つの省庁によって行われる省庁間プログラム（PUCA）の一部である（図1）。審査員は支部によって選出されていた（図1①）。建築家によって提出された作品（図1②）を国内審査員が一次審査・二次審査を行い、受賞チームが決定（図1

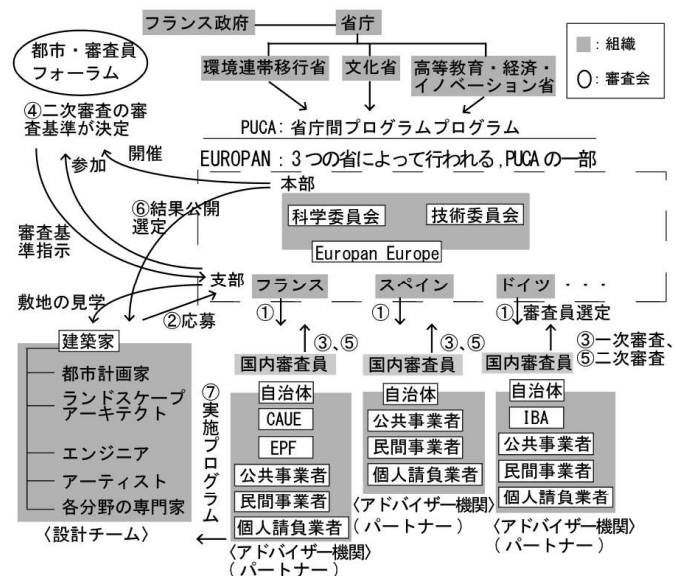


図 1. EUROPAN における審査の体制

③、⑤）していた。また、一次審査と二次審査の間には審査会（都市・審査員フォーラム）が設けられていた（図

1④)。本部により結果がEUROPANのHPに公開されていた(図1⑥)。その後、各支部とパートナー関係にあるアドバイザー機関が受賞チームに対して実施プログラムの支援を行っていた(図1⑦)。これらの関係性によって、実績が乏しい若手建築家における実施設計の質を担保していると考えられる。

4. 竣工した事例の用途・規模等

4-1. 参加数に対する受賞チーム数の割合

以下にE1からE17の1)敷地数、2)登録数、3)参加数、4)参加率、5)一次審査通過数、6)各受賞チーム数を整理した(表5)。まず、1敷地に対する参加数の平均を、全体の参加数を敷地数で除して求めた。

各敷地に対して正確なものではないが、E17では1敷地に16組が参加していた。E3の 때가最大で1敷地46組程度であった。E1では、敷地がなかったため0だった。また、全体での平均は27組程度であった。参加数に対して一次審査で20%程度に絞られ、最終的に一次審査通過数から60%程度に絞られていた。例えばE17でみると一次審査通過率23.2%、二次審査通過率54.5%であった。敷地に対して1位、2位、入賞が選ばれていたが、敷地数と各受賞チーム数は異なっていた。

4-2. 実際に竣工した建物

竣工した事例(表6)とそれに対応する建物E1～E3の写真を示した(表7)。設計競技段階、設計段階、施行段階の3段階でプロジェクトが進められていた。また、基本敷地は変化しないが通しNo.1のような特殊な事例もあった^{注4)}。

4-3. 設計競技から竣工までの年間数

設計競技から竣工までの年数をみると(図2)、各事例によって年数にばらつきはあるものの、平均値は8年であり、全体として増加傾向にあった。最小値は4年、最大値は14年であった。設計段階に着目すると、ほと

表5. 参加数に対する一次審査通過通過数および受賞チーム数の割合

開催回	期間	敷地(カ所)	登録(組)	参加(組)	1敷地の平均参加数(組)	参加率(%)	一次審査通過(組)	一次審査通過率(%)	1位(組)	2位(組)	入賞(組)	受賞チーム(組)	二次審査通過率(受賞率)%
E1	1989.1-1990.1	0	2300	800	0.0	35	未	未	45	39	0	84	
E2	1990.1-1991.1	49	4100	1422	29.0	35	未	未	43	45	0	88	
E3	1992.1-1994.6	48	4500	2230	46.5	50	未	未	44	41	0	85	
E4	1994.7-1996.12	65	4500	2434	37.4	54	未	未	51	59	0	110	
E5	1997.1-2000.6	63	3540	1700	27.0	48	未	未	50	63	48	161	
E6	2000.7-2002.12	65	3900	2100	32.3	54	未	未	55	60	63	178	
E7	2003.1-2004.4	67	3750	2010	30.0	54	未	未	57	62	67	186	
E8	2004.5-2006.4	74	3116	1618	21.9	52	未	未	61	82	60	203	
E9	2006.6-2008.5	73	3227	1752	24.0	54	383	21.9	63	69	65	197	51.4
E10	2008.6-2010.5	62	4219	2429	39.2	58	431	17.7	56	67	85	208	48.3
E11	2010.6-2012.5	49	2705	1826	37.3	68	325	17.8	41	54	54	149	45.8
E12	2012.6-2015.3	51	2412	1762	34.5	73	339	19.2	43	63	64	170	50.1
E13	2015.3-2017.2	49	1862	1305	26.6	70	310	23.8	44	49	61	154	49.7
E14	2017.2-2019.2	44	1353	1003	22.8	74	244	24.3	41	47	48	136	55.7
E15	2019.2-2021.2	47	1241	901	19.2	73	230	25.5	44	47	45	136	59.1
E16	2021.4-2023.3	40	1102	677	16.9	61	201	29.7	40	41	46	127	63.2
E17	2023.3-2024.12	51	1156	815	16.0	71	237	29.1	49	52	57	158	66.7
平均値		53	2881	1576	27.1	58	300	23.2	49	55	45	149	54.5

表6. 実際に竣工した事例の用途・規模等

通しNo.	開催回	国	設計競技段階	敷地	設計段階	施行段階	竣工までの年数	用途	敷地面積(m ²)	延床面積(m ²)	ユニット数
1	E1	1位	フランス	1989ロッテルダム	1991-92ボルドー	1993-94ボルドー	5	宿泊施設	-	-	-
2		2位	スペイン	1994アリカンテ	1994-99	2000-03	9	公園	3,000	1,300	-
3		2位	フランス	1994ミューズ	1994-96	1996-98	4	集合住宅	15,000	3,000	-
4	E3	2位	フランス	1994サント	1996-99	2000-03	9	集合住宅	12,000	3,500	40戸
5		1位	フランス	1994サント	1995-98	2000-05	11	集合住宅+店舗	12,000	3,500	64戸+2店舗
6		1位	フランス	1994ランス	1994-97	1998-01	7	集合住宅	18,000	-	-
7		1位	フランス	1996アティス	1997-99	2000-01	5	集合住宅	120,000	23,000	47戸
8		1位	スペイン	1996セビーリャ	1996-98	1999-02	6	集合住宅	-	8,000	174戸
9		2位	スペイン	1996ビルバオ	1997-01	2002-04	8	集合住宅	-	29,985	356戸
10	E4	1位	スペイン	1996ビルバオ	1997-02	2003-05	9	集合住宅	-	49,000	84戸
11		1位	フランス	1996サンクトアン	1998-01	2001-05	9	集合住宅+個人住宅+社会住宅	200,000	30,000	45戸+2戸+25戸
12		2位	スペイン	1996バリアドリッド	1997-00	2000-06	10	文化センター+健康センター+プール	-	33,400	-
13		1位	スペイン	1998バラカルド	1999-01	2001-03	5	スタジアム+公園	23,000	6,000	-
14		1位	スペイン	1999セウタ	1999-01	2001-09	10	集合住宅	-	39,000	127戸
15	E5	1位	フランス	1998ミューズ	1999-05	2005-10	12	集合住宅	605,000	22,000	42戸
16		1位	スペイン	1998バラカルド	2001-03	2004-06	7	公園	23,000	6,000	-
17		2位	スペイン	1998バラカルド	2001-05	2005-08	10	集合住宅	23,000	6,000	84戸
18		1位	フランス	2001ルーベ	2002-07	2008-10	9	集合住宅	150,000	30,000	-
19		2位	ドイツ	2001インゴルシュタット	2002-05	2005-15	14	集合住宅	40,000	6,000	-
20	E6	1位	スペイン	2001バラカルド	2001-08	2008-11	10	公園	290,000	-	-
21		1位	フランス	2001レンヌ	2001-07	2010-10	10	公園	200,000	20,000	-
22		1位	フランス	2001マルセイユ	2001-05	2005-07	6	集合住宅	200,000	30,000	19戸
23		1位	スペイン	2003バルセロナ	2005-08	2008-10	7	集合住宅	113,000	12,000	140戸
24	E7	1位	ドイツ	2003ノイナルム	2004-08	2008-12	9	集合住宅	400,000	48,000	170戸
25		1位	フランス	2003ランス	2004-09	2010-12	9	集合住宅	100,000	67,000	66戸
26		1位	ドイツ	2007シュプレムベルク	2008-09	2009-13	6	野外劇場	-	-	-
27	E9	1位	ドイツ	2007ゼルプ	2008-10	2011-15	9	集合住宅+ディケアセンター	-	-	25戸
28		1位	ドイツ	2007ドナウエールト	2008-12	2011-15	8	託児所+コミュニティセンター	-	-	25戸
29	E11	1位	ドイツ	2011イベンビューレン	2013-16	2015-17	6	集合住宅	110,000	28,000	12戸
30		2位	フランス	2013マルセイユ	2014-15	2016-21	8	公園	-	-	-
31	E12	1位	ドイツ	2013マンハイム	2014-23	2023-24	11	公園	-	-	-
32		1位	ドイツ	2015ゼルプ	2016-18	2019	4	公園	-	-	-
33	E13	1位	フランス	2015サンヌブリュー	2016-20	2020-24	9	公園	-	-	-

んど事例が2年以上かけており、最小で1年(表6通しNo.1、26、30)、最大で9年を要していた(表6通しNo.31)。設計段階の平均値は3.5年であった。これに対し、施工段階では最小で1年未満(表6通しNo.32)、最大で10年を要していた(表6通しNo.19)。施工段階の平均値は3.2年であった。

4-4. 用途

用途としては、集合住宅、公園、宿泊施設、集合住宅と複合した施設、その他の施設に分類できた。集合住宅は18件で、全体の54.5%を占め、最も多かった（表8）。次いで、公園が8件で全体の24.2%を占め、集合住宅に次いで多かった。

4-5. 規模

都市全体や区画一帯を敷地としているため、敷地面積は全体的に大規模であった。また、延床面積の平均が3万㎡を超えるなど、規模も非常に大きかった（表9）。これにより、EUROPANが都市計画を主な対象としていることが窺えた。他用途の割合については今後の課題として残る。

5. 総括

本研究で明らかになったことを以下に整理する。

表 7. E1～E3の事例写真

通し No.	開催 回	順位	国	敷地	通し No.	開催 回	順位	国	敷地
1	E1	1位	フランス	ポルドー	2	E3	2位	スペイン	アリカンテ
宿泊施設					公園				
									
3	E3	2位	フランス	ミュルーズ	4	E3	2位	フランス	サント
集合住宅					集合住宅				
									
5	E3	1位	フランス	サント	6	E3	1位	フランス	ランス
集合住宅+店舗					集合住宅				
									

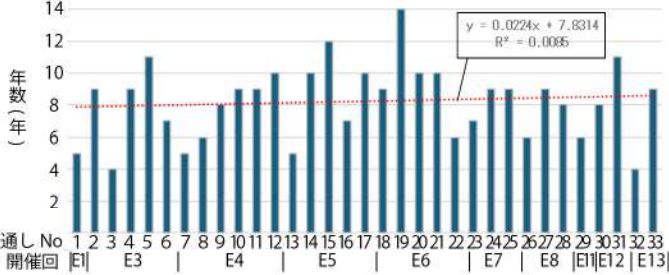


図 2. 設計競技から竣工までの年数

表 8. 竣工した事例の用途の割合

	集合住宅	公園	宿泊施設	集合住宅と複合した施設	その他施設	合計
合計(施設)	18	8	1	3	3	33
割合(%)	54.5	24.2	3.0	9.1	9.1	100.0

表 9. 敷地面積、延床面積、集住ユニット数の平均値

	敷地面積(㎡)	延床面積(㎡)	戸数(戸)
平均	132,850	33,682	89.4

1) 応募条件には、40歳以下で学位またはそれと同等の資格を有することが求められ、設計者の実績に関する制限は設けられていなかった（3-1）。また、設計競技段階には1年間の期間が設定され、その内訳として203日間の設計期間が設けられていた（3-3）。さらに、フォーラムによる審査会とアドバイザー機関による実施プログラムが運用されていた（3-4）。これらのことから、実績の少ない若手建築家が公共建築に参画できるような運営体制が整えられていることが分かった。

2) 一次審査通過者数は参加者数の約20%で、受賞チームは一次審査通過者の約60%に達しており、平均的に1敷地に対して27組が参加していた。そのため、一次審査通過者は約5組、受賞チームは3組程度となっていた（4-1）。

3) 設計競技段階、設計段階、施工段階という3段階のプロセスが存在していた（4-2）。設計競技から竣工までの期間は平均で8年、うち設計段階は3.5年、施工段階は3.2年を要して竣工に至っていた（4-3）。また、これらのプロジェクトは都市計画を中心としたものであり（4-5）、欧州における都市の課題に取り組むことが目的とされていた。

以上より、応募から竣工までの運営体制を把握した。

謝辞

調査にあたって、本部で出版物や人事、実施プロセスに事務の立場として関わるFrançoise Bonnat氏の協力を得た。本研究は科学研究費基盤研究(B)(2024-2027)「質の高い建築の調達のための設計者選定手法に向けた行政と支援組織の体制に関する研究」(24K01060)(代表者：脇坂圭一)により実施した。

注釈

注1) 上記Françoise Bonnat氏に2024年7月31日にメールによりヒアリング調査を実施した。

注2) Only countries which participate in the session are paying money to European Europe. Our budget at European Europe turns around 750 000 € for 2 years.

注3) 2024年11月14日のレートにより1ユーロ164.03円で換算した。

注4) EUROPAN公式HPのresources-projects/processes-E1 施主の意向により変わった。

注5) 表10に本稿の用語の和文表記法を示す。

参考文献

文1) EUROPANの公式HP(<https://www.europan-europe.eu/en/>) 最終閲覧日2024年11月14日

文2) 「EUROPAN 8～17 RESULTSE」European Europe、2006～2024

文3) (公財)建築技術教育普及センター公式HP(<https://www.jaeic.or.jp/index.html>) 最終閲覧日2024年11月14日

表 10. 用語集^{注5)}

通し No.	英文	和文
1	Inter Sessions Forum	インターセッションズフォーラム
2	Forum Cities and Juries	都市・審査員フォーラム
3	Set Up	セットアップ
4	winner	1位
5	runner-up	2位
6	special mentions	入賞
7	Scientific Committee	科学委員会
8	Technical Committee	技術委員会
9	competition	設計競技
10	process	プロセス段階
11	implementation	竣工
12	intervention	敷地面積
13	construction	延床面積